

善光寺縁起事牙四国縁

伊地知氏書冊



- 一 本<sup>りんだ</sup>に<sup>た</sup>善光<sup>うしこう</sup>由<sup>ゆ</sup>來<sup>らい</sup>同<sup>どう</sup>南<sup>なん</sup>都<sup>と</sup>上<sup>じやう</sup>流<sup>りゆう</sup>の<sup>の</sup>り
- 二 如<sup>ごと</sup>非<sup>ひ</sup>波<sup>は</sup>の<sup>の</sup>深<sup>ふか</sup>い<sup>い</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>水<sup>みづ</sup>も<sup>も</sup>現<sup>あらわ</sup>れ<sup>る</sup>後<sup>のち</sup>徳<sup>とく</sup>皇<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り
- 三 如<sup>ごと</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>が<sup>が</sup>素<sup>もと</sup>の<sup>の</sup>疑<sup>ぎ</sup>惑<sup>ごく</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>丈<sup>さか</sup>婦<sup>ぶ</sup>が<sup>が</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>の<sup>の</sup>り
- 四 如<sup>ごと</sup>牙<sup>が</sup>の<sup>の</sup>信<sup>しん</sup>告<sup>こ</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>同<sup>どう</sup>水<sup>すい</sup>内<sup>ない</sup>都<sup>と</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り
- 五 如<sup>ごと</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>梵<sup>ぼん</sup>的<sup>てき</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>梵<sup>ぼん</sup>皇<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り
- 六 如<sup>ごと</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>善<sup>ぜん</sup>光<sup>こう</sup>の<sup>の</sup>り

七

皇極天皇為御冥途よて善作口々てまうて  
此合にうらんとして

八

如牙善作が御にうて親世音并と圖魔鹿よ  
つうりて天皇は御命とてえのい同は蘇生

九

執多善光善作御命にうて素也并あ人  
國主とつうりて

十

信濃國善光寺建立のり

善光寺縁起卷第四

① 初め善光が由來同前部上流

善光寺

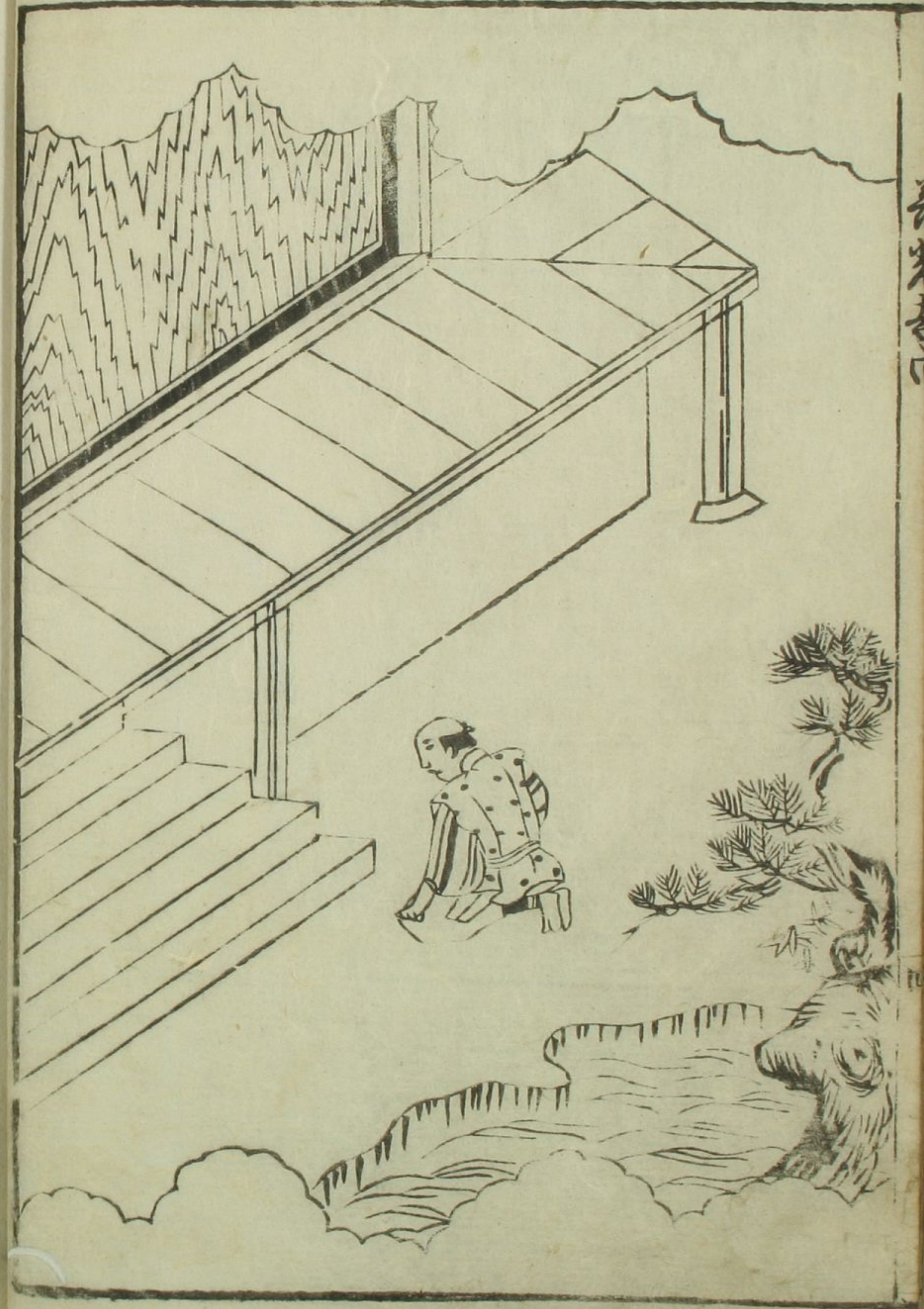
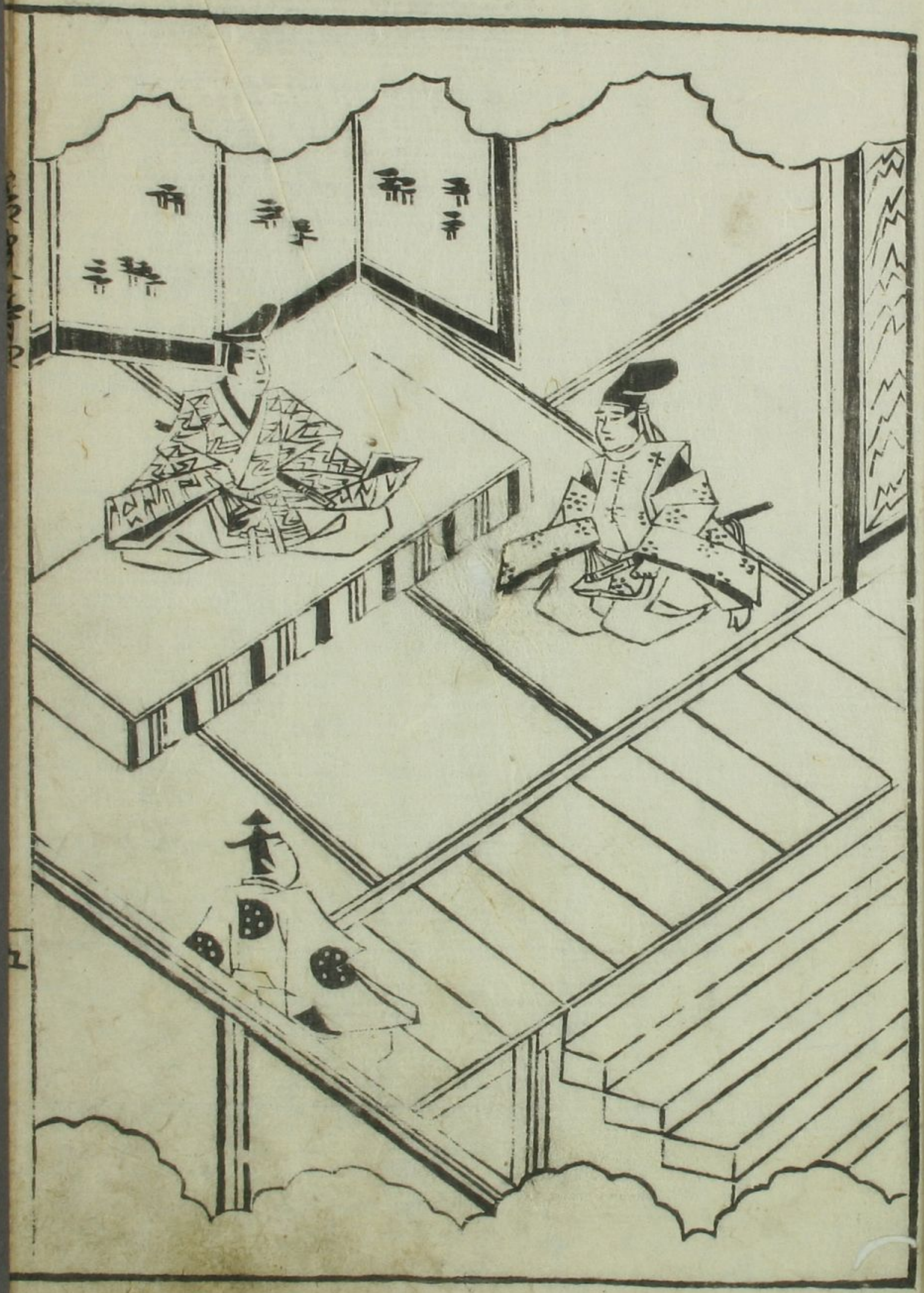


恭たゆんるにちも河原原松の善作生利善の聖  
よのの海をれて百海の善作より一善作にまうり  
よは地逆まらるるも屋ごめれ難波の水産は  
せあひて所分今日とハヤセとも殿よ十六年の善作と  
送りあひまうい何代にもまうい年号のましあうり  
人皇二十代推古天皇の御代より一まうりて八年庚  
申此より一善作のまじりては授意あつとめ林善作と  
後一善作より一善作の善作は信濃國の國ありあこれ  
アうて國の信濃國に民の中より人まをりて

かくしつらるるかかれわりのる家よ回を伴形於麻縹の  
 室に一人の古民を奉る由昔光とつらりそ先祖のまゝ國の  
 家よりあつりつらりまゝつらり民のよくらつりてい  
 恒々つらつたにひらまゝつらりつらり身にてそありけ  
 まじし信教のありつらりあつらりつらりつらり風情あり  
 竹の抱につらり麻縹のつらりつらりつらりつらりつらり  
 月のまじし昔まじしつらりつらりつらりつらりつらり  
 うひよそつらりつらり神のまじしつらりつらりつらりつらり  
 よねつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 たつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 ちのつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

くれれをよめつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 よいさつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 たつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 たりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 役のつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 いたつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 まつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 んつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
 のつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり





長安寺

法華持明の心... 如来の相... 妙法蓮華經... 一切衆生の佛性... 諸法無常... 諸行無住... 一切皆空... 諸法寂滅... 無常... 苦... 空... 無我... 諸法無常... 諸行無住... 一切皆空... 諸法寂滅... 無常... 苦... 空... 無我...

人教よりのあちの... 如来の心... 妙法蓮華經... 一切衆生の佛性... 諸法無常... 諸行無住... 一切皆空... 諸法寂滅... 無常... 苦... 空... 無我... 諸法無常... 諸行無住... 一切皆空... 諸法寂滅... 無常... 苦... 空... 無我...







向一のひたり昔もえんころよりなりあはれひのうら  
あましく唯れくぬちをたのむらるるめえんがうらつた  
乃のたのむらうらそめよけ非波の海はよこし  
可も亦ちあめてまかりたりとけりるよ何うあはれ水底  
うりえぬくもまよこえられんをもちよこし  
んごころりるる昔もえんがうらよこし  
いこる水神のちよあはれとくもあはれ  
ちらうんごころれどころよりあまのけりてあまもえ  
ととるくしとれりあまのちよあはれとくもあはれ  
つてあまのけりてあまのちよあはれとくもあはれ

ひく北國邊とあまのちよあはれとくもあはれ  
あまのちよあはれとくもあはれとくもあはれ  
昔もえんは信作のころとくもあはれ  
くもあはれとくもあはれとくもあはれ

昔在天竺名月蓋  
次在百濟名聖明  
今在日本名善光  
我今尋汝來此處  
生々世々護念汝  
故我隨汝往東國

奉請如來致恭敬  
我飛彼國被安置  
三國一躰同檀那  
早仕宿緣皈敬我  
如影隨形不暫離  
欲令利益惡衆生

うしよの件は信濃と頼朝とて徳義の源とていふ  
 孝の信忠とていふはあつたかまひして向ふるやうに  
 うしよの宿世の因縁とていふはゆるるにこれよ  
 御兄弟もそこそこの家も別業もあつた  
 時頼も世襲の才現の信時といふていふは  
 志のあつたとして百済の聖王といふは  
 信忠とていふは信時とていふは信時とていふは  
 頼朝の才といふはあつたかまひして向ふるやうに  
 似たりといふはあつたかまひして向ふるやうに  
 ちうくといふはあつたかまひして向ふるやうに  
 志とあつたかまひして向ふるやうに

信時さんといふはあつたかまひして向ふるやうに  
 志のあつたかまひして向ふるやうに  
 頼朝信時のころといふはあつたかまひして向ふるやうに  
 まこと孝直もあつたかまひして向ふるやうに  
 らんと口二もあつたかまひして向ふるやうに  
 の果報といふはあつたかまひして向ふるやうに  
 かろりといふはあつたかまひして向ふるやうに  
 の二達といふはあつたかまひして向ふるやうに  
 といふはあつたかまひして向ふるやうに  
 といふはあつたかまひして向ふるやうに

むんとぬがひしゆをを頼又むあつらうらば今うらが  
 とつらうらう一統にむよむとびくこせのじしれ  
 頼らうらよ頼らうらあく冷めらりわつらあやうらじ  
 なるぐくあひ水庵よ流り年久く一年上まを子こ  
 がたのよあつらうら一送信ち庵と殊つ対し法具  
 澄の頼め頼として信をよひあよ信てあを流りとの  
 一あ流とあつらうらあは庵の也骨とあつらうら年月とあつら  
 あり内院よつらわつらあを興して奉迎よらうらうら  
 海とつらよわつらあを興して奉迎よらうらうら  
 らうらありあを興して奉迎よらうらうら  
 せよあつらうらあを興して奉迎よらうらうら

むんとぬがひしゆをを頼又むあつらうらば今うらが  
 とつらうらう一統にむよむとびくこせのじしれ  
 頼らうらよ頼らうらあく冷めらりわつらあやうらじ  
 なるぐくあひ水庵よ流り年久く一年上まを子こ  
 がたのよあつらうら一送信ち庵と殊つ対し法具  
 澄の頼め頼として信をよひあよ信てあを流りとの  
 一あ流とあつらうらあは庵の也骨とあつらうら年月とあつら  
 あり内院よつらわつらあを興して奉迎よらうらうら  
 海とつらよわつらあを興して奉迎よらうらうら  
 らうらありあを興して奉迎よらうらうら  
 せよあつらうらあを興して奉迎よらうらうら



あんし家よ入てのたすいなるかうやくありしと  
 れが昔え松子の人ありいなるまむらうましたひより  
 うぶとうぶらうかしくかきまじひくうはかのむしひ  
 ておぬらもの何ちうぞとくくむかきんこかゆうぶ  
 去のせえとよとてせまありし一海平さうとうむし  
 まりし海保はあまのてまありこくけ  
 あくまけがのはひありいそいおくこれのはひのま  
 りはのてあうが国縁とありぬれむ日本度しい  
 ても報ういあういあういんえん三にての国書二書  
 ことあまののまのわくあり百海國としていむあ  
 うことあまのとして十昔の後よとありし一かれ今日か

よてちも昔えとされしもの一いあしとせらるる  
 ことせよむあていしううううううううううう  
 らあうううううううううううううううううう  
 はんそのうううううううううううううううう  
 たかううううううううううううううううう  
 世のぬらうううううううううううううううう  
 じまもていしうううううううううううううう  
 ううううううううううううううううううう  
 あんしううううううううううううううううう  
 かのううううううううううううううううう  
 せうううううううううううううううううう







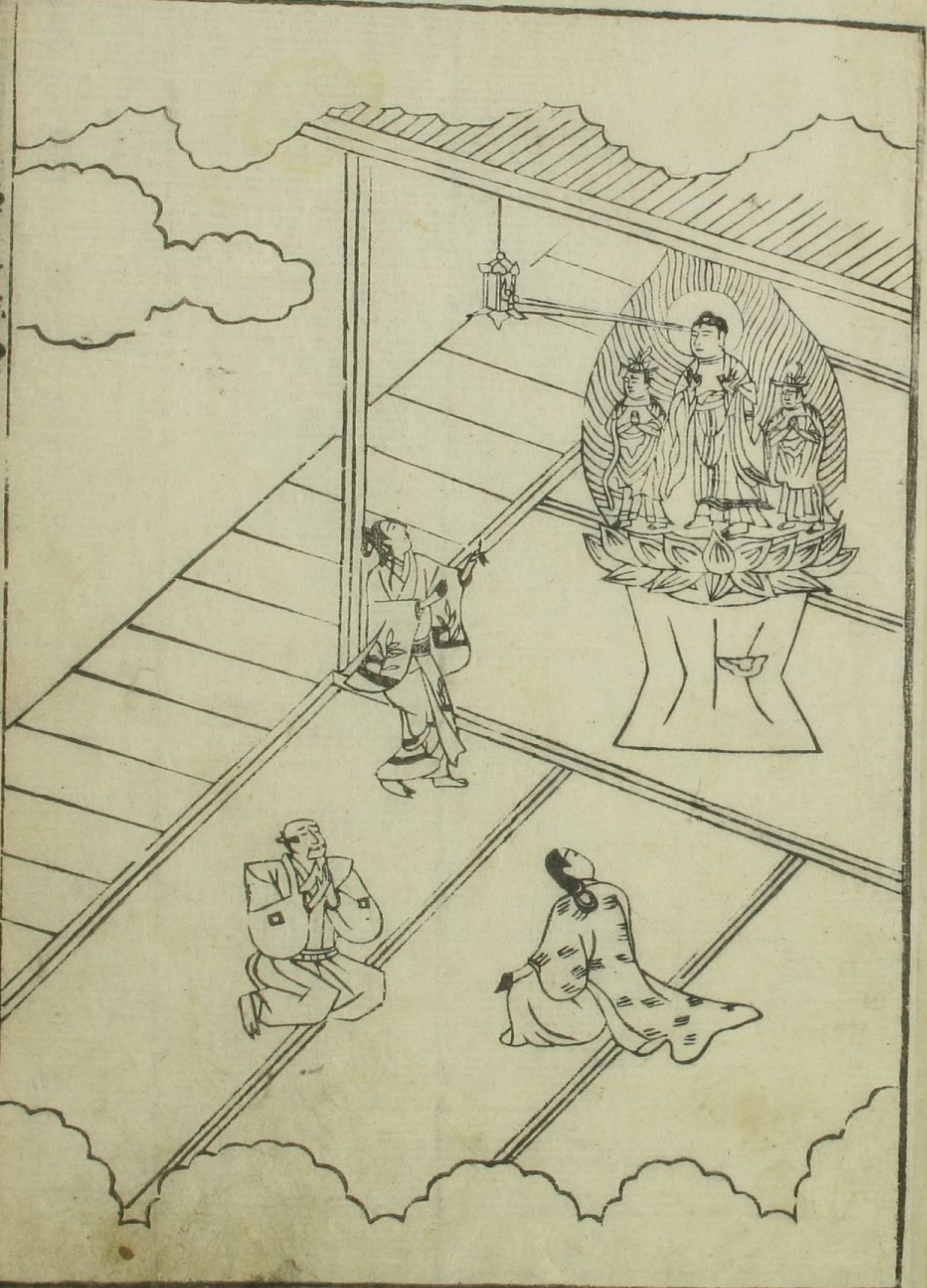
登一ものうとして女身修の教よとてのめひし信せられたる  
 まうとては十年のりたる ④ 皇極ののち  
 代任富のうしにわつて女身修のいまのち ⑤ 國水  
 肉の辛か鼎よあまのいびくこれより後被りよは  
 漱わらうとて女身修よあまのいびくこれより後  
 て國水の國錦にうしむる若きあまのりあひく  
 ねとてあまの信んとしてそののりして任富のあまのり  
 考とていともては女身修よあまのりしてあまのり  
 ひてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 うこしてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり

⑤ 或何社の料にとてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり

げざのうとして女身修の教よとてのめひし信せられたる  
 中にとりては國水のうぶれくあまのりしてあまのり  
 若きあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 かしてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 新代よとてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 してあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 てあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 のりあひしてあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり  
 てあまのりしてあまのりしてあまのりしてあまのり

一度見常燈 永離三惡道  
 何況挑香油 決定生極樂

これおめ来の公光よりこそこの世の苦しみの迷闇として  
 しあつらりこの世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 いらんは夫の画をばぬりるい教の修りよのて  
 勿法を捨ててこそ其の徳をばぬりるい教の修りよのて  
 綴りよも迷闇よもなげに世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 吾も南生のこの世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 とゆまの世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 といふ世の苦しみの迷闇の今いたれば  
 の世の苦しみの迷闇の今いたれば



善悪抄







芥の化身けいのけしんよりして悪苦あくく妙用めうりゆうのたまはたせり  
 の教のきょうとてとて修行しゆぎやうの塵ちんににありあり冥夫めいぶの中のちゆうはは泥でい  
 来らくくののああららくくてて塵ちん王おうのの中ちゆうはは偽ぎののああららくくた  
 るるひひこことと一いつ光こうののああららくくああしし眉まゆののああららくくた  
 夫おつとののああららくくああしし等とう活かつののああららくくたたのの地ぢ獄じやくより  
 五ごつらつら地ぢ獄じやくののああららくくたたののああららくくた  
 ここととここととありあり けけののああららくくたたののああららくくた  
 系けいののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 消しょうたたれれたたののああららくくたたののああららくくた  
 ありあり 阿あ摩あ王おうののああららくくたたののああららくくた  
 神かみとと等とうとと投とう獄じやく卒そつもも地ぢののああららくくたたののああららくくた  
 神かみとと等とうとと投とう獄じやく卒そつもも地ぢののああららくくたたののああららくくた

三途さんず苦く之し怨えんんん此こ光こう明めい皆みな得とく休きゆう息そくをを後ご苦く惱なう来ら終しゆうと  
 好こう皆みな解げ脱だつとと後ごののああららくくたたののああららくくた  
 ぶぶららてておおのの冠かんとと地ぢののああららくくたたののああららくくた  
 りり 阿あ摩あ王おうののああららくくたたののああららくくた  
 事こと終しゆうととままののああららくくたたののああららくくた  
 土つちののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 ののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 かかととんんののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 りりとともも彼かののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 次つぎののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた  
 せせととはは生せいままののああららくくたたののああららくくたたののああららくくた

グ昔果と愛くしてこそは海濱やうしーのふれを自と  
のづんごあうのら昔作海濱及門守のふれを至せり  
とのふれを獲て愛をいしく被昔作とふれを  
紫園ころあうくは遠うあふれを海濱利ようこれ  
きく惟昔作がれよふ地獄の事感よれ昔作ぬれを  
自業自約のふれこれと宿せんころあうらんた  
し今くあふの光陰と被くしあうこそよ宿世の  
縁がよあふに不可思縁にこそ解ありきと  
惟くまれら昔作遺能よあうのふれを海濱よの  
んごころあふの正教と被くしあふんはゆふ感  
教をよふとて昔作が業能能精といふも  
わ

つうりりどくとして後の縁年よ念くられし牛  
の縁年昔作とてあうめて海よふれを海濱  
惟くして海濱のお好と被くしあふはゆふの  
ゆとあて昔作が頂とてしあふれはゆふの  
くしあうめころ織のくしあうめころ織のく  
よとあうめ縁年一箇よあうのふれを海濱  
まどりのりり昔作が好と被くしあふはゆふ  
園よふれを海濱とてしあふはゆふのふれを  
りてえんととのに園よふれを海濱とてしあ  
くしあふはゆふのふれを海濱とてしあふは  
よとあうめ縁年一箇よあうのふれを海濱  
まどりのりり昔作が好と被くしあふはゆふ  
園よふれを海濱とてしあふはゆふのふれを  
りてえんととのに園よふれを海濱とてしあ  
くしあふはゆふのふれを海濱とてしあふは  
よとあうめ縁年一箇よあうのふれを海濱

昔の七十年





若他はあけを造りていひぬはくもあれはうは  
けりていひぬはくもあれはうは  
あつありと造りていひぬはくもあれはうは  
んていひぬはくもあれはうは  
正心とていひぬはくもあれはうは  
うとていひぬはくもあれはうは  
りていひぬはくもあれはうは  
そとていひぬはくもあれはうは  
むとていひぬはくもあれはうは  
のようていひぬはくもあれはうは  
て又母二人のうとていひぬはくもあれはうは

とていひぬはくもあれはうは  
りていひぬはくもあれはうは  
そとていひぬはくもあれはうは  
むとていひぬはくもあれはうは  
のようていひぬはくもあれはうは  
て又母二人のうとていひぬはくもあれはうは  
りていひぬはくもあれはうは  
そとていひぬはくもあれはうは  
むとていひぬはくもあれはうは  
のようていひぬはくもあれはうは  
て又母二人のうとていひぬはくもあれはうは

善見寺日記



一から一へはも地獄の地をうけて天と云うしめ酒  
 とるのまじと云い地獄へ入ると或は自らと考れたのまじと  
 指して其国者一と云うは國土のまじ地の面くりし業  
 の穢りたるまじと云いしるるものけりしはあはらばと  
 會經二回は括るる時は親世言をて作るふむ自業に感  
 果のぐるこにちるし入獄の地はまじなるるるうらむけく  
 知んんとすろふあはらばは地獄のまじなるるるうらむ  
 かのて後若らふ糸の利はあり今まのあはらむの供  
 志とあはらむ地獄のまじなるるものけりしはあはらばと  
 一から一へはも地獄の地をうけて天と云うしめ酒  
 とるのまじと云い地獄へ入ると或は自らと考れたのまじと  
 指して其国者一と云うは國土のまじ地の面くりし業  
 の穢りたるまじと云いしるるものけりしはあはらばと  
 會經二回は括るる時は親世言をて作るふむ自業に感  
 果のぐるこにちるし入獄の地はまじなるるるうらむけく  
 知んんとすろふあはらばは地獄のまじなるるるうらむ  
 かのて後若らふ糸の利はあり今まのあはらむの供  
 志とあはらむ地獄のまじなるるものけりしはあはらばと

百の力業乃至位知とも経てくまようらり慈悲はらご  
 へとごう一慈悲の役と腐とごく一とる為大忠とのべこ  
 せのひをれを高とま別座りりよりりあひして礼拝恭  
 敬しあがりて樹率よ命じて女帝より一むして事  
 くらよままははよこくあがり海よ奇美の秘わ不可心様よ  
 して云海ごんごりあがりよ大重くで成むにらるる乃  
 どくにして昔作とくめひしてたどりあめませめひる  
 奉平昔作は作々りの海何の國の人ぞやあそとてよ大忠と  
 なるごりゆ海よとつごりりよ慈悲と報せごくとぞ作  
 らの昔作をてPやう伝法國水國の草おの又が名はあめ  
 昔作を向く昔作とPに大主處例ましくして慈悲

のつめされと繼文の二震はの人あのことよつあよ報せと  
 であうとやあ國の人されといごうと報せごうん  
 報せり宣使とごびごく一と海を治まりてやとて大  
 五八五文にありごうとせめひを昔作は伝法國よ花  
 忠にさしてと柿お表よ大主蘇せしあめよ百友法  
 司よとめ傍流神職よつごうまごよれもくとま由し  
 忽然海の役といごうとてか業の海一とららして  
 めでごうり一とらなれと海中をこのとて民の靡乃  
 うらまごよとれくよらごびの又よめく一にらる御とめ  
 天よハご自まごごうくのゆとま信ごうらごうらよ及く  
 のめあうかあやごびんあうらりぬれども達との若



厚光寺のありてりやまぐしお母の御教をとりてりひたるん  
 向はへちかくも山座のひまやうりお母を教をえいりな  
 てはていそで海よりか座せしじつどくえん地経のちを護  
 ありお母の照法もれたれまごつづの礼法をゆるして  
 教上をゆるべしと執しめむ終子のらでともおはな  
 りてごころとありてりまはよままごころありてり  
 一お母のたまてりお母を執しめりやうお母をわたりあ  
 らば法がゆきあうごらんよハ徹中の徳若どうもあこ  
 ろしこ方までありてりまんとてたすおの位よつじこひ  
 石も島海保もろつていひくお海もたわうくたも  
 るよおましくあれたる御奉仕ありとらたあらばめづる

へしをも傳のりひかめりつらゆきもあつたは御とてりり  
 せりよのゆるしお母作しこまのりりりりりりりりりり  
 こ物命はよはのららららららららららららららららら  
 ころたをたを正にもころららららららららららららら  
 らのたよてりお母もころころころころころころころ  
 泉のたよてりお母もころころころころころころころ  
 ひつろりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 ともあつたは御とてりりりりりりりりりりりりりり  
 傳と扶持しりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
 来代よ及たえらるやうにはそあつたは御とてりりりり  
 ろくはらちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ごとと奉<sup>ほう</sup>ずり<sup>ずり</sup>に<sup>に</sup>市<sup>いち</sup>で<sup>で</sup>療<sup>りょう</sup>ず<sup>ず</sup>ま<sup>ま</sup>し<sup>し</sup>、<sup>し</sup>非<sup>ひ</sup>妙<sup>めう</sup>なる<sup>なる</sup>ら<sup>ら</sup>を<sup>を</sup>引<sup>ひ</sup>け<sup>け</sup>  
 と<sup>と</sup>若<sup>わ</sup>作<sup>さく</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>家<sup>け</sup>に<sup>に</sup>信<sup>しん</sup>法<sup>ぽう</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>な<sup>な</sup>ひ<sup>ひ</sup>つ<sup>つ</sup>に<sup>に</sup>昔<sup>せき</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>甲<sup>か</sup>斐<sup>はい</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>  
 ゆ<sup>ゆ</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>の<sup>の</sup>い<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ま<sup>ま</sup>と<sup>と</sup>敷<sup>しき</sup>れ<sup>れ</sup>く<sup>く</sup>信<sup>しん</sup>法<sup>ぽう</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>よ<sup>よ</sup>ひ<sup>ひ</sup>づ<sup>づ</sup>  
 と<sup>と</sup>法<sup>ぽう</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>下<sup>げ</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>ひ<sup>ひ</sup>も<sup>も</sup>お<sup>お</sup>目<sup>め</sup>を<sup>を</sup>座<sup>ざ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>救<sup>きう</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>の<sup>の</sup>引<sup>ひ</sup>出<sup>しゅ</sup>め<sup>め</sup>  
 め<sup>め</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>出<sup>しゅ</sup>い<sup>い</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>め<sup>め</sup>り<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>れ<sup>れ</sup>ど<sup>ど</sup>め<sup>め</sup>教<sup>きやう</sup>子<sup>し</sup>の<sup>の</sup>志<sup>し</sup>は<sup>は</sup>海<sup>かい</sup>に<sup>に</sup>一<sup>いち</sup>遍<sup>べん</sup>目<sup>め</sup>せ<sup>せ</sup>  
 の<sup>の</sup>づ<sup>づ</sup>え<sup>え</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>び<sup>び</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>して<sup>して</sup>退<sup>たい</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>な<sup>な</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>つ<sup>つ</sup>こ<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>し<sup>し</sup>  
 よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>く<sup>く</sup>入<sup>にゅう</sup>家<sup>け</sup>の<sup>の</sup>様<sup>やう</sup>式<sup>しき</sup>と<sup>と</sup>つ<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>騎<sup>き</sup>の<sup>の</sup>信<sup>しん</sup>法<sup>ぽう</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>り<sup>り</sup>  
 一<sup>いち</sup>と<sup>と</sup>病<sup>びやう</sup>ご<sup>ご</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>を<sup>を</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>で<sup>で</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>由<sup>ゆ</sup>國<sup>こく</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>り<sup>り</sup>  
 め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>①<sup>①</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>め<sup>め</sup>身<sup>みん</sup>津<sup>しん</sup>堂<sup>だう</sup>建<sup>けん</sup>立<sup>りつ</sup>の<sup>の</sup>こ<sup>こ</sup>し<sup>し</sup>に<sup>に</sup>出<sup>しゅ</sup>の<sup>の</sup>  
 出<sup>しゅ</sup>報<sup>ほう</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>して</sup>い<sup>い</sup>う<sup>う</sup>こ<sup>こ</sup>に<sup>に</sup>出<sup>しゅ</sup>受<sup>じゆ</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>く<sup>く</sup>本<sup>ほん</sup>と<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>  
 く<sup>く</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>り<sup>り</sup>と<sup>と</sup>え<sup>え</sup>め<sup>め</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>し<sup>し</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>依<sup>い</sup>め<sup>め</sup>の<sup>の</sup>法<sup>ぽう</sup>大<sup>だい</sup>告<sup>こく</sup>律<sup>りつ</sup>經<sup>きやう</sup>會<sup>かい</sup>

しく<sup>しく</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>れ</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>ど<sup>ど</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>本<sup>ほん</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>づ<sup>づ</sup>ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>め<sup>め</sup>と<sup>と</sup>  
 て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>場<sup>ばう</sup>に<sup>に</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>金<sup>きん</sup>堂<sup>だう</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>は<sup>は</sup>靴<sup>くつ</sup>井<sup>い</sup>  
 工<sup>くわう</sup>匠<sup>じやう</sup>と<sup>と</sup>現<sup>げん</sup>め<sup>め</sup>あ<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>造<sup>ぞう</sup>ら<sup>ら</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>造<sup>ぞう</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 て<sup>て</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>急<sup>きゆう</sup>足<sup>そく</sup>勒<sup>りく</sup>井<sup>い</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>が<sup>が</sup>ら<sup>ら</sup>せ<sup>せ</sup>た<sup>た</sup>ま<sup>ま</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 の<sup>の</sup>井<sup>い</sup>造<sup>ぞう</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>造<sup>ぞう</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>の<sup>の</sup>せ<sup>せ</sup>よ<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>め<sup>め</sup>て<sup>て</sup>め<sup>め</sup>保<sup>ほ</sup>勒<sup>りく</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 依<sup>い</sup>在<sup>ざい</sup>世<sup>せい</sup>よ<sup>よ</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>て<sup>て</sup>今<sup>いま</sup>衛<sup>ゑい</sup>國<sup>こく</sup>の<sup>の</sup>め<sup>め</sup>も<sup>も</sup>須<sup>す</sup>達<sup>だつ</sup>へ<sup>へ</sup>教<sup>きやう</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 祇<sup>ぎ</sup>園<sup>えん</sup>精<sup>しやう</sup>舎<sup>しゃ</sup>と<sup>と</sup>造<sup>ぞう</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>し<sup>し</sup>六<sup>ろく</sup>師<sup>し</sup>外<sup>がい</sup>道<sup>だう</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>修<sup>しゆ</sup>め<sup>め</sup>  
 の<sup>の</sup>法<sup>ぽう</sup>号<sup>ごう</sup>と<sup>と</sup>め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>今<sup>いま</sup>ひ<sup>ひ</sup>昔<sup>せき</sup>ま<sup>ま</sup>寺<sup>じ</sup>本<sup>ほん</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 凡<sup>ばん</sup>夫<sup>ふう</sup>為<sup>ゐ</sup>地<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>  
 め<sup>め</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>と<sup>と</sup>ら<sup>ら</sup>

ともなくゆたかきと事代湯世のなせ海産なる魚のま  
 場なれど何んかこれとあめづらりんや又が澤のまよ  
 まつりて昔まきとどきうらうらうなむあめとこび  
 び浄協りたどきうらうらう合書しうらうらうらう  
 性的とくお海の因縁をかうんのあれうとてあ  
 んや昔の家去は世の海業とありお海のまよと  
 るてともなくれおおとらうらうらうの命とていのら  
 うらうらうおとらうらうらうらうらうらうらうらう  
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

吾光寺縁起事書中記終

丁亥夏末之  
 曉空所持物

